

令和5年度第1回島田市子ども・子育て会議

開催日 令和6年1月22日（月）
開催時間 午前10時から正午まで
開催場所 島田市役所 本庁舎3階 大会議室

【出席者】（14名）

永田恵実子委員、杉本真美委員、久野龍彦委員、鈴木和裕委員、長谷川智美委員、福永宣彦委員、杉山詳乃委員、鈴木芳雄委員、清水文子委員、熊谷彩織委員、山村順樹委員、村田一史委員、山田敏雄委員、鈴木仁枝委員

【欠席者】（1名）

市川平和委員

1 開会

●事務局

定刻になりましたので、令和5年度第1回島田市子ども・子育て会議を始めさせていただきます。

本日は、お忙しい中、島田市子ども・子育て会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。それでは、本日配布いたしました資料の確認をお願い致します。資料としましては、「本日の次第」、「子ども・子育て会議委員名簿」、「島田市子ども・子育て会議条例」、「(資料1) 第2期島田市子ども・子育て支援事業計画の実施状況」、「(資料2) 保育施設等の変更」、「(資料3) 島田市こども計画策定概要」、「(資料4) 子ども・子育てに関する調査票（就学前保護者用）」、「(資料5) 子ども・子育てに関する調査票（小学生保護者用）」、「(資料6) 子ども・若者に関する調査票」、「(資料7) 子どもの生活実態に関する調査票（小学生・中学生用）」、「(資料8) 子どもの生活実態に関する調査票（保護者用）」になります。「(資料9) こども大綱で示された数値目標」、「第2期島田市子ども・子育て支援事業計画」の冊子、「島田市子どもの貧困対策推進計画」の冊子、「第2期島田市子ども・若者育成支援計画」の冊子となります。資料に不足がございましたら、お知らせください。

ありがとうございました。続きまして、今回新たに15名の方を子ども・子育て会議の委員として委嘱をさせていただきます。委嘱状につきましては、机の上に配布させていただきましたので、ご確認ください。また、本日14名の委員のご出席をいただいております。委員の半数以上が出席しておりますので、島田市子ども・子育て会議条例に基づきまして会議を開催いたします。よろしくお願いいたします。

続きまして、今回の会議の総理にあたりまして、この会議の委員長と副委員長を選任させていただきたいと思います。事務局で一任して決めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

●各委員

異議なし

●事務局

異議なしのお言葉をいただきました。それでは、委員長には、永田恵実子様、副委員長には杉本真美様に職務を一任したいと思います。よろしくお願い致します。では、永田委員長から一言、ご挨拶を頂きたいと思います。

●委員長

おはようございます。皆様、お忙しい中お集りましていただきましてありがとうございます。これから寒くなるそうです。そんな中ですが、今日は皆さまの温かいご意見をたくさんいただいて進めていきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。それから、今回の会議は最初の会議になりますので、改めて皆さまから一言ずつご挨拶をお願い致します。

●各委員

※各委員の方から、それぞれ自己紹介。

●事務局

委員の皆様、ありがとうございました。今後とも、よろしくお願い致します。それでは、永田委員長に議事の進行を一任させていただきますので、よろしく願いします。

2 審議案件

●委員長

ありがとうございました。それでは、次第に沿って進行致します。次第にあります「2 審議案件」の「第2期島田市子ども・子育て支援事業計画の実施状況について」ですが、ご担当の方から説明をお願いします。

●事務局

※事務局から「第2期島田市子ども・子育て支援事業計画の実施状況について」説明

●委員長

ありがとうございました。事務局の方から説明がありました。委員の皆さま、ご意見等ありましたらお願いします。

●A委員

実績について報告いただきましたが、今後、次期計画の策定においてどのように活用していくのか、簡単に教えていただきたいです。

●事務局

資料にあります各事業のうち、放課後児童健全育成事業についてご説明させていただきます。放課後児童健全育成事業とは、放課後児童クラブを指します。利用の申し込みを量の見込み、確保の方策が受け入れ可能人数になります。令和4年度の実績として、報告した数字では、利用人数の一番多い時期である8月の利用を適用していません。資料の中では、過不足と示された数字が待機児童数を示しています。小学校1年生から小学校6年生までの申し込みが1,142人に対して、受入人数として1,089人しか受入できず、53人が待機児童となりました。待機児童の内訳は3年生、4年生、5年生の児童となっています。もちろん、小学校6年生まで申し込みができることになっていますが、実際、受け皿として高学年の児童の受入確保ができていない状況です。現在は令和6年度の受入調整を行っています。3年生まではなんとか受け入れる目標で、受入人数を確保のするために学校等とも協議を行っているところであります。今後に向けて、少子化といってもニーズがあるため、受入人数の確保に努めていきたいと考えています。

また、資料1の幼稚園、保育園、認定こども園や小規模保育所などに入所している子どもの人数及び定員を示しています。量の見込みのうち、実績の部分が令和5年3月末時点に入所している子どもの数になります。確保の内容が、各施設における定員を示しております。ご覧いただきますと、1号が幼稚園と認定こども園の幼稚園部を示しています。所謂、3歳以上の幼稚園施設に入所している子どもになります。確保の内容が施設の定員に対して、実際に入所している人数が若干減っていて、250人ほど余裕があります。さらに、2号と3号が、保育園と認定こども園の保育園部、小規模保育所を示しています。こちらは定員に対して、それよりも多くの人数を受け入れています。例えば、2号は施設の定員に対して、208人多く入所しています。実際の各保育園においては、施設の定員に対しておよそ120%まで一般的に5年間入所が認められています。ただ今後、少子化が進み、子どもが減っていく中で、この施設の定員がどうなるか、施設の定員がこのままでよいのか、若しくは、子どもが減るので、施設の定員も減らしていくか、次期計画では検討しなければならないと思います。次期計画策定では、各ご家庭にアンケートを行い、改めて幼稚園や保育園の需要の確認を行います。

●A委員

ありがとうございました。

●委員長

これから計画を策定するため、まだまだこれから検討することだと思っておりますので、よろしくお願い致します。

●B委員

自分の子どもも放課後児童クラブを利用していました。子どもと話しをすると、友達と遊びたいと思うけど、しょうがなく親が言うから通っていると言っていました。高学年の利用がかなり少なくなっているのですが、親は預けたいけど、3年生までしか預けられないといった、預けにくい雰囲気を感じていると聞きました。4年生以降は子どもを一人でお留守番させるしかないという親もいます。子どもの意見を聞いたうえで、しょうがなく放課後児童クラブに通っている子どもがどのくらいいるのかなどを調べて、受入人数の検討をしてもよいのではと思います。放課後児童クラブに通わなければならない状況が、子どもにとってどうなのかという視点も大事だと思います。

●委員長

ありがとうございます。親の意見だけを聞くだけでなく、子どもの意見を聞くことがとても大事だと思います。

●C委員

自分の聞いた話では、小学校1年生と4年生の兄弟で、夏休みだけでも放課後児童クラブを利用したいと思っていたけど、通っている小学校の放課後児童クラブは3年生までしか使えない、4年生は使えないよと聞いた。実際は分からないけど、私のところでは申し込んでも利用申請の書類を書くのも大変なのでまあいいかと思い、仕事もパートだったため、1か月仕事を休むことにしました。申し込む前から諦めているという潜在的ニーズもあることも皆さんお分かりかと思いますが、放課後児童クラブで働く方も大変だと思いますが、もう少し利用しやすい状況になったらありがたいと思います。例えば、1か月でなく週数日だけとか受入方法があつたら助かるなと思いました。

●委員長

ありがとうございました。様々なご意見があると思います。今後アンケート調査もあると思いますので、よろしくお願い致します。続きまして、「保育施設等の変更について」、ご担当の方から説明をお願いします。

●事務局

※事務局から「保育施設等の変更について」説明

●委員長

ありがとうございました。事務局の方から説明がありました。委員の皆さま、ご意見等ありましたらお願いします。

●D委員

感想になりますが、小中学校も子どもの数が減っています。年間100人くらい減っているように思います。このことから、保育園等の定員の数を見ると、概ね100人以上減少していると思いました。これはいずれ小学校や中学校、今後の島田市の労働生産人口にも影響する大きな課題になるのではと思いました。

●委員長

ありがとうございました。

●E委員

私は幼稚園を運営していますが、今回幼稚園の定員を減らす予定です。実際に定員を70人にしても、60人くらいが利用の推移になっています。島田市の統計調査を見ますと、10年前は0歳児が700人以上居ましたが、今現在は500人くらいになっています。今後、人口がどんどん減っていくのか危機感を覚えました。島田市では幼稚園の数が多いため、今後どのようにするか、幼稚園が無くなっていくのか危機感がある。島田市の人口が増えていくためには、市としてどのように考えていくのか、これからの課題になるのではと思いました。

●委員長

ありがとうございました。

●F委員

保育園については、共働きのご家庭が増えています。少子化は進んでいますが、ニーズは増えています。コロナ禍において、育児休業を延長する方が増えてきて、以前は0歳児の入園がとてもハードルが高かったのですが、今は1歳児の入園のハードルが高くなっています。常にいっぱいですが、なんとか運営している状況です。本当に必要なニーズに対応できることが難しくなったと思います。以前は、本当に必要な子どもだけが来ていましたが、今は早く入園した方が有利というか、本当は大変なご家庭に対応していきたいと思いますが、職員の確保も大変でして、運営していくことも難しくなっているのが事実です。小規模の3歳児の受入も増えてきています。できる限り対応はしていますが、いろんな課題もあるという状況です。

●委員長

ありがとうございました。続きまして、「島田市こども計画の策定に伴う実態把握調査について」、ご担当の方から説明をお願いします。

●事務局

※事務局から「島田市こども計画の策定に伴う実態把握調査について」説明

●委員長

ありがとうございました。調査票がたくさんあるので、調査票を分けて審議を行いたいと思います。資料4と資料5が子ども・子育て支援事業計画に関する調査票で就学前と小学生に分かれています、次に資料6の子ども・若者に関する調査、3つめが資料7と資料8の子どもの生活実態に関する調査で小学生と中学生、保護者に分かれています。まず、資料4と資料5の子ども・子育て支援事業計画に関する調査票について、皆さんのご意見をお聞きしたいと思います。

●B委員

実際に調査票を答えさせていただきました。設問が多くて大変でした。就学前の保護者用の調査票ですが、調査票の中に親の就労状況を聞く設問がありますが、子どもが通う園の申請書にも同じことが書いてあるのにまた記入することが気になりました。あと、保護者の就労状況ですが、仕事ができない方もいると思う。その選択肢がない。希望するかしらないかしか選択肢がないところが気になりました。それから、全体的に文章が多いので、読み込まないと分からない。きちんと理解できるか気になりました。あと、祖父母について聞いている設問の中で、問7ですが、父方なのか母方のことなのか、また同居しているか、していないのかの文言がないので、どう答えたらよいか分からなかった。少し答えにくかった。

●委員長

ありがとうございました。他にはいかがでしょうか。

●G委員

この調査票は、前回の計画を策定した際の項目を活用したのか。

●委員長

ありがとうございました。事務局の方いかがでしょうか。

●事務局

前回の調査票をベースに作成をしています。

●G委員

前回と同じ項目を挙げたことの質問をしたのは、前回との傾向の比較ができると思ったので聞かせていただきました。

●委員長

ありがとうございました。他にはいかがでしょうか。

●A委員

調査票を読ませていただきましたが、先ほど、別の委員も発言されていましたが、ほんとに大変で、読み込みが必要だと思いました。同時に、ここまで詳しく把握して、市の施策に反映させていこうとすることのご苦勞もよくわかる感じが致しました。アンケートの対象者は約7,000人となっていたと思いますが、就学前と小学生の対象人数はどのくらいですが、また、前回の調査での回収率はどのくらいでしょうか。

●委員長

ありがとうございました。事務局の方お願いします。

●事務局

資料4の配布人数は1,600人、資料5の配布人数は1,000人を予定しています。前回の回収率は、資料4が68.8%、資料5は63.1%になります。また、資料7と資料8の貧困に関する調査ですが、資料7は小学校5年生と中学校2年生を対象に配布をする予定で、それぞれ840人で併せて1,680人を予定しています。保護者ですが、それぞれ小学校5年生と中学校2年生の保護者を対象にしていますが、それぞれ840人で合計で1,680人を予定しています。また、回収率ですが、小学校5年生が96.88%、中学校2年生は95.24%、小学校5年生の保護者は92.93%、中学校2年生の保護者は85.59%となります。また、若者の調査は前回行っておりませんが、配布を予定している人数は1,000人を予定しております。

●委員長

ありがとうございました。よろしいでしょうか。調査票の内容について他にご意見ありますか。

●F委員

前回の調査で資料4と資料5の回収率が低いと思いましたが、アンケートに答えてくれた方は、意見を言う方が多いのですが、アンケートに答えていない方とか、外国人とか、障害がある方とか、こういった方の意見を吸い上げるのか、こうした方の意見も救っていかねばならないと思うと、そこをどうサポートするかも課題になってくると思いますが、そのあたりどう考えているのか気になりました。

●委員長

ありがとうございました。事務局の方お願いします

●事務局

委員のご意見のとおりだと思います。前回も郵送で行っており、回収率はこのくらいになります。回収率でいうと高い方だと思います。皆さんの注目があつたのではと思います。アンケートに答えない方などの意見を聞きたいという意味では、子どもの貧困に関する調査になると思いますが、前回の調査でも郵送だと回答率が低いと予想したので、学校の協力で行いました。学校の協力もあり、高い回収率になったと思います。前回でも、高い回答率を目指すべきではないかという意見がありましたが、準備時間や費用などの制約の中で、最大効果を目指すということでこうした調査となりました。一番は、全員にヒアリング調査を行うことだと思いますが、実施するには難しいため、一番効果のある方法というところでした。今回の調査については、まだ検討中です。

●委員長

ありがとうございました。調査の方法は、インターネット等の Web を利用して実施することは考えていますか。

●事務局

前回の調査でも、資料4について幼稚園協会の協力のもとインターネットによる調査を実施しましたが、回答率がすごく低くなりました。貧困の調査のように、学校の協力で行うと約90%くらい、郵送だと約50%くらい、インターネットだとおそらく20%前後になると思います。最近では、インターネットの活用も徐々に増えてきているので、回答率は若干上がってきているのではと思いますが、ただ、インターネットだけで調査を行うことは、回答率は低くなると予想できるため、難しいと思いますので、前回との比較を考慮すると、前回と同じ調査方法で行いたいと思います。また、前回幼稚園協会だけにインターネットを活用した調査を行いました。回答に偏りが見られました。できるだけ、偏りのない方法として、郵送による調査を行いたいと考えています。

●委員長

ありがとうございました。資料7と資料8の調査票ですが、学校でタブレット端末を活用する方法ではどうでしょうか。

●事務局

タブレット端末を活用した方法も検討の余地もあると思いますが、今回の調査は、紙の調査票で実施することを考えています。

●委員長

わかりました。他にいかがでしょうか。

●B委員

調査を保護者のどちらが回答するかで、設問によっては偏りが出てくるのではないかと、主観的な部分が強く出てくるのではと思いますが、こうした調査では回答の誤差が生じると思います。前回の調査では保護者のどちらかが回答したのか、回答の誤差がどの程度影響しているのか分析はしたのか気になりました。

●委員長

事務局の方をお願いします。

●事務局

あくまでも無作為による調査のため、母子家庭、父子家庭も関係なく行っていますので、そうした誤差に関する分析は行っていません。

●B委員

最近では、こうしたアンケート調査に母親だけでなく父親が回答することも増えていると思います。小学校のPTAの活動に父親が参加することがある中で、こうした実情を考慮してアンケート調査をしてもいいのではと思いました。また、満足度を測れる指標もあってはいいのではと思います。子どもの幸せを感じていますかというところも、この計画にもあってはいいのではと思います。川崎市では、平成18年にこども権利条例が制定されそうです。それは、こどもも関わって制定されたそうですが、その中で、あるお子さんが言った言葉ですごい印象的だったのが、こどもが幸せだと思う時はという質問で、お父さんお母さんが幸せな時が私の幸せですと答えでした。お父さんお母さんが幸せだと感じているかを、こどもがどう感じているかをアンケートに加えてもいいのかと思いました。

●委員長

ありがとうございました。

●事務局

ありがとうございました。調査票では、設問に父親や母親という選択肢があるので、どちらか答えたかを把握することはできます。ただ、前回の調査では、そこまで分析はしておりませんでした。ただ、今後活用してみることも検討していきたいと思えます。

●委員長

ありがとうございました。子育て支援は変化がありますので、そうしたところも踏まえてアンケート調査をしていかなければいけないということだと思いました。それでは次に、資料6の子ども・若者に関する調査になります。皆さんご意見はいかがでしょうか。この資料について、何か補足説明はありますか。

●事務局

子ども・若者計画は、こどもや若者の健やかな成長と自立を支援する目的で策定をしております。現行は第2期となり、5年間の計画となっています。先ほど、前回調査は行わなかったとの説明がありましたが、庁内や社会福祉協議会などで構成したワーキンググループを発足し、計画の案を検討しました。また、市の社会教育委員会や教育委員会での協議や、外部委員も含めて構成された青少年問題協議会でも計画案の審議を行い、パブリックコメントを経て計画を策定しました。この計画の対象者は、0歳からおおむね30歳未満になり、施策によっては、青年期を過ぎた大学等において社会の各分野を支えて発展させていく資質能力を養う努力を続けている者といった40歳未満も対象となります。今回行う調査は、15歳から39歳までを対象に行います。

●委員長

ありがとうございました。委員の方いかがでしょうか。

●B委員

一度アンケートに答えてみましたが、かなり主観的で、結婚をするかしないという設問が、結婚に対する価値がない方だと、どちらでもいいのではと思いました。また、ひきこもりの方だとアンケートをポストに投函することが大変ではと思いました。あと、島田に住んでいる方で、他に移りたいと思っているかとか、島田に住むことをどう思っているかとか、もう少しざっくりしたような回答ができる欄を設けてもいいのではと思いました。質問も結構限定されているように感じた。普段の過ごし方とか、他の家族との繋がりといったことを入れてもいいのかと思いました。

●委員長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

●E委員

ひきこもりの方にアンケートをしているような印象がありました。年齢的に15歳から39歳まで幅広いので、年齢で分けた質問でもよいのではと思いました。島田市のいいところや島田市に住みたい理由は何ですかなど、こうした質問があると島田市を変えていこうという方向にもいくのかなと思いました。調査の意図がよく分からないとも感じました。

●委員長

ありがとうございました。

●事務局

ご質問ありがとうございました。こちらの調査は、国から示された数値目標等を測る設問を加えたり、今後の若者に関する施策でどういったことに取り組むべきかを検討する中で、調査票では、島田市の取り組みに対する意見や思いを答えてもらう質問や自由意見で答えてもらう設問を設けました。

年齢を分けてという話がありましたが、国や県の調査方法も参考にしながら設問を設けていますが、今回の調査では難しいのではと思います。

●委員長

よろしいでしょうか。H委員いかがでしょうか

●H委員

今回の調査票は、繊細な内容に思いました。こうしたアンケートは、選択肢の内容しかないので、回答する方によって、答えられる内容ばかりではないと思いますので、自由な意見を答えられるアンケートもよいのではないかと思います。

●委員長

ありがとうございました。I委員どうでしょうか

●I委員

この調査票は、ルビの表記はあるのでしょうか。また、結婚という言葉がありますが、性の多様性の観点から結婚という言葉なのか、パートナーという言葉がよいのか、性別の設問があるので配慮されていると思いますが、性の多様性に関しても考えて頂けたらと思いました。

●委員長

ありがとうございました。事務局の方いかがでしょうか。

●事務局

ルビについては、インターネットを利用した調査のため、ルビの表記はありません。また、結婚については、人によってはセンシティブな内容になりますが、日本では少子化に取り組む中で、結婚を通して子どもを産むケースが多いこともあり、アンケートの中で触れなければならないことだと考えますので、アンケートの項目に設定をしています。

●委員長

ありがとうございました。

● J 委員

アンケートを Web で行うことは、自分は良いことだと思います。紙のアンケートだと、なかなか忙しい中で行わなければならないので、Web やスマホでできればやりやすいと思いました。

● 委員長

ありがとうございました。

● K 委員

資料 6 の子ども・若者に関する調査は、こども大綱ができて、「こども」の「こ」の字がひらがなになったことで、このアンケート調査の対象が 18 歳未満だけではないと思いました。結婚のこと、就労のこと、地域活動のことなど、その地域で暮らしていく中でのことをこのアンケートで回答してもらいたいと思いました。また、アンケートの質問の中には、なかなか答えにくい内容もあると思いました。自分の子どもを見ていると、社会参加というか周りとは繋がるといったことを聞く設問があってもよいかとも思いました。

● 委員長

ありがとうございました。

● A 委員

私は、このアンケートを見たときに面白いと思いました。今の若者の意識が随分変わってきていると思います。周りとお互いに理解しあうためにも、このアンケートで聞くことは意味があると思いました。ただ、年齢層が 15 歳から 39 歳までの幅広いことが気になりました。質問の内容によっては、答える方の年齢によって答えることが難しいものもある思い、広い年齢層で行うことに少し違和感があると思いました。このアンケートは、主観的に答えてもらう設問が多いため、どれだけ回答してくれるかと思いましたが、それでもこのアンケートを行う価値はあると思います。

● 委員長

ありがとうございました。

●事務局

ご意見ありがとうございました。年齢層についてご質問がありましたが、アンケート自体を年齢層で変えることはなかなか難しいと思います。ただ、分析としては年齢別に行うことができると思います。この調査は今回初めて行いますが、国や県の調査を参考にしながらいろんな声を聴きたいという思いで行いたいのをご理解いただきたいと思います。それから、冒頭でアンケート調査の方法について説明がされていなかったと思いますので、改めてご説明をさせていただきます。資料4と資料5の子ども・子育て支援事業計画に関する調査は、対象者を無作為抽出により郵送で行います。資料6の若者に関する調査は今回初めての取り組みになりますが、対象が若者中心のためWebによる方法がどうなるかまた、Webによる方法が答えやすい年齢ではないかということもあり、今回Webにより調査を行います。さらに、資料7と資料8の子どもの生活実態に関する調査は、先ほど話をしましたが、細かい内容まで回答してもらうこと、回収率を上げたいため学校を通じて行う予定です。前回行った調査内容も比べたいため、同じ内容や方法で行います。ただし、若者に関する調査は今回Webによる方法で行いますのでその結果によっては、今後の調査方法についても検討をしていきたいと思っています。

●委員長

ありがとうございました。

●B委員

労働に関してですが、かつては生産性や生きるためという考えが強かったと思いますが、自分のやりたい事ができるとか、そういう部分も働く意味に繋がっているように思うので、そういう考え方が年齢別に拾い上げられてもよいと思いました。それから、自分もそうですが被害者感というか、例えば年金の事だとか、高齢者の年金を自分たちに背負わされているという思い、ネガティブな考えがあると思うので、労働についてどう考えているか聞いてみてもよいのではと思いました。

●委員長

ありがとうございました。

●事務局

今の若者たちが、どういう事に不満を持っているかを把握することは、とても大切なことだと思います。これからの支援や施策を検討する上でも、質問の中で多くの選択肢を設けることも検討しましたが、逆に選択肢が多すぎて答えづらいのではと思いましたので、自由意見の選択肢を設けました。また、設問の内容も少し検討してみたいと思います。

●委員長

ありがとうございました。私も若者と普段一緒にいますが、考え方は随分変化しているなと思います。去年と今年で違います。この調査は、結婚や将来を考えてもらう一つの機会になると思います。続いて、資料7と資料8の子どもの生活実態に関する調査について、委員の方ご意見ございますか。

●I委員

資料8の保護者用の調査ですが、対象者の中で就学前の子どもを持つ保護者もいると思うのですが、調査対象者が一緒になることがあるのでしょうか。それから、小学生・中学生の調査は学校を通じて行うということでしょうか。保護者分も学校を通じて行うということですか。提出に際して、学校で催促することでしょうか。また、学校ではタブレット端末を利用していますが、アンケートをタブレット端末で行うことは難しいのでしょうか。

●事務局

最初の調査対象者が同じになるかというご質問ですが、資料4の子ども・子育て支援事業計画に関する調査は無作為で行うため、就学前の子どもを持つ保護者と今回の調査対象者が同じになることは考えられます。また、調査票の回収は学校にもご協力いただきますが、学校から保護者に対して提出をお願いすることは想定していません。また、タブレット端末でアンケート調査を行えないかというご質問ですが、この調査がタブレットだと答えにくい仕様であること、前回の調査と違う方法だと前回との比較においてズレが生じる可能性が考えられるため今回は紙による調査で実施をしていきたい。ただ、今回資料6の若者に関する調査はWebによる方法を採用していますので、結果次第では今後の調査方法について検討の余地があると考えています。また、学校側にも今回の調査方法について、ご説明をしていきたいと思います。

●委員長

ありがとうございます。

●I委員

資料4の子ども・子育て支援事業計画に関する調査と資料8の子どもの生活実態に関する調査が一緒になった場合、両方答えるのか、またはどちらかに回答するのか。

●事務局

調査票を送る対象者数と母数から考えると、調査対象者が一緒になる可能性は低いと思われます。ただし、問い合わせがあった場合は、ご協力いただきたい旨の説明を行います。

●委員長

ありがとうございます。ご負担だと思いますが、目的が違うのでご協力いただく形になるかなと思います。他にいかがでしょうか。

●L委員

今就労している方が多い中で、こうしたアンケート調査に回答することは大変だと思います。自分の仕事では、申請書類などを Web で行う仕組みを導入したところ、いろんな方の協力もありましたが、申請数が増えました。今回は紙による調査のようですが、今後は Web の回答方法も検討してはいかがでしょうか。

●委員長

ありがとうございました。

●M委員

アンケートの全般のことですが、アンケートは答える側も実施する側も大変だと思います。答えた方の気持ちが出てくるといいなとも思いました。例えば、資料7の子どもの生活実態に関する調査で、子どもから見た大人の評価についての質問を入れてみるのはどうか。今後の調査でも同じ質問をしてみてどう変化するか、子どもの評価と大人の考えの違いをみる質問も面白いかなとも思いました。資料4の調査で、こどもの権利についての質問がありますが、こどもの権利を保護者が守れているかどうかという質問があってもよいのではとも思いました。こうしたアンケートから学ぶことも大切だと思います。私も、こどもの権利とは何かを調べましたが、このアンケートを通じて答える側も意識付けができるような設問を設けてもよいのではとも思いました。私も実際にアンケートに答えてみましたが、忙しい中で答えることは大変でしたが、このアンケートに答えることで島田市の施策が充実することになるとか、私の意見を反映してほしいとか、主体的に関われるようになるという意識を持ってもらうようなアンケートがよいとも思いました。

●事務局

ありがとうございました。とても面白い視点で、そうした質問を設けることにも検討できたらしとも思いました。ただし、調査項目が多いこともご意見としてありましたが、今回の調査は前回の調査や国から示された数値目標等を測る設問を加えて作成しておりますので、これ以上質問を増やすことはなかなか難しいかもしれませんが検討してもよいかとも思いました。

●委員長

ありがとうございました。今回の調査の目的は、こどもが中心になっているかということですので、そのための調査であるということを理解してもらいながら、子どもの将来のためになるようにしていただけるとありがたいと思います。若者が、将来に向かって社会に出ていこうという気持ちがなかなかでない人もいます。それは自分の学力ではなく、せっかく持っている自分の持つ能力をなぜ社会で活躍するために活用できないのかと思う時があります。親が子どものためと思っていることが、実は将来に向かって子どもたちが進んでいくのを阻んでいる場合もあるので、ぜひ、このアンケートで保護者の方に見返してもらえらる調査であるとよいなと思います。

●H委員

少し話が違うかもしれませんが、私は、お見合いの場を設けることがあります。若者の中には、結婚願望があっても中々しない方もいます。結婚しないことには少子化は防げないのではと思います。お見合いの機会を多く設けることで少子化対策に繋がればよいと思います。ありがとうございました。

●委員長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

●B委員

資料4の子ども・子育て支援事業計画に関する調査で、最後の質問が、最近別の調査でも似たような質問があったかなと思います。内容が似ているので、回答の負担を減らす努力はしてもらいたいと思いました。最後に、親が子どもを見る責任を必ず持つという考えがずっとあって、それが徐々に社会全体で養育しようという考えになってきているとは思いますが、自分は親が子どもをしっかり見なさいと言われることがあり、養育に関して社会の考え方が変化しているのに自分のところは変わっていない、こうした社会の価値観の変化について、アンケートでも調査してもよいのではないかと、価値観の意識を変えていくことも一緒にやってもよいのではと思いました。

●委員長

ありがとうございました。

●事務局

親育という言葉もありますが、親も育っていかなければならない、こうした意識自体を社会教育でも取り組んでいます、このアンケートを通じて、意識付けや理解が進めばよいと感じています。いろんな取り組みの中で、親も子も一緒になって、子どもを真ん中に据えて考えていくことがこれからの先のトレンドなのかと考えます。子育て支援に向けた取り組みを推進していきたいと思います。よろしくお願いします。

●委員長

ありがとうございました。

●E委員

最後に質問ですが、資料9の目標は島田市の目標ということでしょうか。

●事務局

資料9の数値目標は、国で定めた指標となります。島田市においても数値目標を検討しておりますが、国で示された指標も測れるようにアンケートに質問として加えています。

●E 委員

ぜひ検討をしてください。国で示された目標の値が低いように思います。ぜひ、島田市としては、もう少し高い目標を持った方がよいのではと思いました。

●委員長

ありがとうございました。

●事務局

ありがとうございました。今後検討をさせていただきます。

●委員長

ありがとうございました。それでは、議事の進行を事務局にお返し致します。

3 閉会

●事務局

永田委員長、議事の進行ありがとうございました。委員の皆さま、本日は、お忙しい中、会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございました。委員の皆さまから頂きましたご意見を参考にさせていただきます。島田市こども計画の策定に伴う実態把握調査を実施していきます。それでは、令和5年度第1回島田市子ども・子育て会議を閉会致します。委員の皆様、本日はお忙しい中、誠にありがとうございました。